

地域に活気を！

五十崎町商工会が持続可能な地域づくりを目指してすすめる戦略

はじめに

景気の回復、特に大企業においては増収・増益と、新聞をはじめ、各メディアで見聞きする昨今ですが、同時に格差社会「勝ち組」「負け組」という言葉も横行しています。これからの時代、何事も「自主」「自立」「自己責任」の3つの言葉がキーワードとなつて、当面競争社会が続くでしょう。この事が良いか悪いかはさて置き、商工会も同様に厳しい立場に追い込まれていくことと思います。これから商工会はどう在るべきかを考えるときであり、商工会の合併(平成19年4月1日予定)をどう捉えるかが問題だと思いません。合併はあくまで手段であつて、目的ではないと思っております。

旧町(内子 小田 五十崎)の地域文化・伝統・気質(地域性)は当然違うし、それに合った商工会の運営、活動をしてきている訳で、合併と同時にそれらすべてを新しく統一し、運営・活動する事は決して好ましい事ではないと思えます。まずは自らの地域(私は五十崎地区)を把握できた後の事だと思っております。いずれ

にせよ、そこへ行くまではなかなか大変な事で、簡単な道のみではないと痛感している所ですが、現在の活動状況をまとめてみました。

この3年間(会長に就いて4年目に入ったところ)をみても会員数は、廃業等による減少の傾向にあり、特に以前12社あつた縫製業は、現在2社と、大幅に減少しており、これだけでも雇用数が大きく減っています。他の業種も多かれ少なかれ同様かと思いますが、女性(特に主婦)の働き先が減るといふ事は、地域での購買にも関係するのではないかと思います。公共事業等の減少が建設業へ及ぼす影響も他地域と同様で、地域全体に活気がなくなつてきたような気がします。

そんな状況の中、商工会としてどう取り組むかと検討した結果、各部(会)活動の中で一人でもいい「こういう事に取り組みたい」といふ事があれば提案してもらい、それを実行委員会とし、その活動を支援して行こうと決定しました。そこで提案があつたのが「新技術・新産業創造研究会」です。

五十崎町商工会
会長
久保 和繁

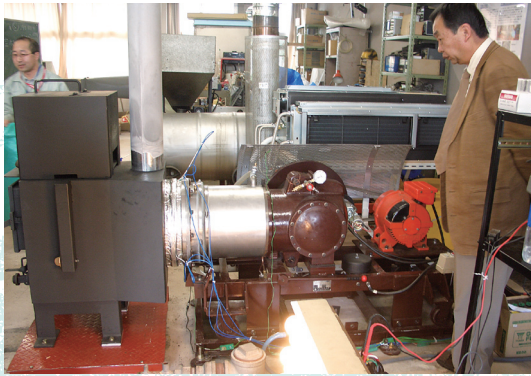


新技術・新産業創造研究会

これは発足して約3年になりますが、商工会合併も目前に控え、内子町全域の商工会員、その事業所の従事者及び行政の方々に呼びかけ、エネルギーの研究をしようというものです。

間伐材・廃材等から熱水(超臨界)処理でアルコールの抽出などと、一連の理屈は少しとつきにくいかも知れませんが、地域資源の利用、環境、そして雇用に繋がるのでは?という発想です。最近新聞でガソリンにアルコールを混合していくという記事を目にすると、ブラジルではガソリンの高騰から、ガソリン混合用としてアルコールを抽出するためのサトウキビを大量に使うので、砂糖が高くなるという記事などが出ていますが、同じ事です。

そもそも「超臨界とは」「間伐材の処理は」「工程は」と、どうするの?という事はばかりで、そのために中央大学・高知大学・高知工科大学・筑波研究所・東北大学・



一関高専のスターリングエンジン (左の黒い箱はストーブ)

一関高専等の諸先生方を訪ね、迷惑な話にも関わらず、心よく受け入れて頂き、講義を受けてきました。

それぞれの講義内容は省略させていただきますが、東北大学の新井先生のお話で、超臨界実験での設備と実用時の設備を変える(大きくする)必要はないと言われた事が、特に印象残っています。

もし実験でいい結果が出たなら、それがベストなデータであり、設備を大きくするとデータは実験時と同様ではなくなる、だから実験時の設備と同様の物を幾つも作れば、データがそのまま活かせ、コスト等の問題も全体で考えれば大差ないとの考えでした。

この考え方は、何事にも当てはまると

思います。小さいものを幾つもつくる事により柔軟に対応ができ、仮にトラブルが起きた場合にも対処がしやすいのではないのでしょうか。

それから、一関高専で見学したスターリングエンジン

ン(注①)。貯ストーブの熱を利用して1kwの電気をおこすもので、蓄電池との組み合わせにより、家庭用なら充分実用性が有ることでしたが、まだ諸問題を解決する為、新たな実験をという事でした。研究会として、現在主に取り組みきかけとなったところです。

これは少し先が楽しみな感じがしますが、何事もあせらず今後この研究会を見守りたいと思うところです。

● JAPANブランド 育成支援事業(注②)

以前より、「界限づくり委員会」という実行委員会で、地場産業である和紙について、何度か創作展を開いたり、勉強会を積み重ね、次の段階へと思った矢先、この六月に中小企業庁助成事業の「JAPANブランド育成支援事業・戦略策定支援事業(通称ゼロ年目)」に、和紙を題材にした五十崎町商工会の提案が採択されたという朗報が入りました。これはひとえに商工会連合会並びに関係各位の皆様のご助力のおかげと感謝しております。

五十崎の和紙を海外へ(主にフランス)という事で、委員会を立ち上げ動きはじめたところです。今後難題が予想されますが、委員長、副委員長をはじめ、委員諸氏の心強い協力を得て、委員会で検討いただき、そこから生まれた数々の資料は、



JAPANブランド戦略策定委員会の様子

和紙産業に限らず、他の産業が今抱えている問題解決への参考になるものと思います。又、これを機に和紙から派生する多種多様な事業(産業)がこの小さな町に芽生えたならば、元氣を取り戻す原動力になるのにと、願うばかりです。

● 終わりに

各実行委員会を通して思うのですが、大学等との連携、広範囲な方々とのネットワークが私ども商工会の大切な資産となっており、地域産業のサポート役として商工会が役目を負うとすれば、そうした連携の一層密なる関係が必要不可欠であり、それが出来なければ地域支援に支障をきたすのではと思う程です。

〔注〕

① スターリングエンジン

気体の膨張・収縮の原理を利用した発電用エンジン。1816年にスコットランドで開発された。

熱による気体の膨張と、冷却による収縮でピストンを動かす。外部からの熱を利用するので、エンジン内で爆発を必要とせず、燃料の種類を問わない、静かで排ガスもクリーン、メンテナンス・コストが安価で済むなどメリットは多い。一方で、高出力化が難しく、製造コストが割高というのが普及を阻む要因になっていた。このところバイオマス発電の盛り上がりによって俄然注目されるようになってきた。

② JAPANブランド育成支援事業

地域の特性を活かした製品の魅力・価値をさらに高め、全国さらには海外のマーケットにおいても通用する高い評価（「JAPANブランド」）を確立すべく、商工会・商工会議所等が単独または連携して地域

の企業等をコーディネートしつつ行うプロジェクトについて、総合的に支援される。平成16年度、中小企業庁から日本商工会議所・全国商工会連合会への委託事業として創設された。

平成16年度は全国で31件、平成17年度は30件が採択され、支援戦略に変更のあった平成18年度には、「戦略策定段階」の事業が23件、「ブランド確立段階」では新規分7件、継続分37件が採択された。

今年度、五十崎町商工会が「戦略策定支援事業（ゼロ年目）」として採択されたほか、愛媛県内では今治商工会議所が「MABA Rータータルで「ブランド確立支援事業1年目」として採択されている。

9月初旬、「五十崎町商工会 JAPANブランド戦略策定委員会」のメンバー数名が市場調査でパリに赴いた。そのときの様子は別頁、脇田研究員のレポートをご参照いただきたい。（編）

パリに持参したパンフレット



パリでの展示物

